

会議の概要(議事録)

会議の名称	(番号) 3-08	平成25年度第11回すみだ環境共創区民会議		
開催日時	平成26年2月20日(木) 18時30分から20時05分まで			
開催場所	墨田区役所12階 121会議室			
出席者数	【委員14人】 池田委員 伊藤委員 宇田川委員 笠貫委員 久保田委員 小木曾会長 佐野委員 島崎委員 永岡副会長 野島委員 本間委員 松本委員 森下委員 柳委員 【事務局3人】 環境保全課長、環境管理担当主査及び職員			
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる)	傍聴者数	0名	
議 題	1 すみだ環境共創プラン<改定版>基本目標3・5について			
会議概要	1 すみだ環境共創プラン<改定版>基本目標3・5について 会長より、すみだ環境共創プラン<改定版>基本目標3・5について、これまでの定例会で出された意見を踏まえ、意見交換を行う旨の説明があった。 【主な意見等】 ●環境問題は切口が広い。基本目標の中で、基本目標5が一番大事な部分だと思う。環境教育とは、環境を理解する、環境にやさしい人をどう育てていくか、ということだと思う。そのためのプログラムを作ることが、区民会議の重要な役割だと思う。 ●以前、区民会議で尾瀬に行った。体験が「気付き」の重要なきっかけとなる。「気付き」は大切なことで、体験学習を多く提供することができればと思う。これまでに、墨田区の環境の現状を把握して、今後、どのようなことをやっていくのか、体系的なプログラム作りが重要との意見があった。墨田区の環境については、環境保全課で「すみだの環境」を取りまとめている。それを参考に、今後何をやっていくか、体系的なプログラムを作っていけば良いと思う。緑化の推進に関しては、たとえば、木を増やす方法を考えることも一つかと思う。 ●すみだ環境の共創プランでは、ハード面、ソフト面の対応が求められているが、更にハード面への働きかけが重要だと思う。基本目標5にある意識・ハートの育成こそ、区民会議の役割ではないかと思う。区民会議には、あらゆる分野のプロが集まっている。電気事業者として、東京電力では小・中学校で授業をするプログラムを持っている。汗を流して取り組んでいる姿を、熱意を持って次世代へ伝えていけば、必ず良い影響を与えることができる。区民会議としては、区民のハード面の育成のため、教育委員会と連携をするなどして、小・中学校へ出向く具体的な取組みを考えていけば良いと思う。 ●緑化の推進では、区民一人ひとりの意識を高める取組みが大切だと思う。			

●路地裏園芸について、植木鉢やプランター等が道路にはみ出しているところが気になる。十間橋通り商店街等、街路樹が古くなって木としての機能を果たしていないものがあるので、植え替えができたらと思っている。種から花を育てると愛着が湧いてくると思うので、学校でも種から花を育てる取組みをしてほしい。あわの自然学園を利用して、自然とのふれあいや間伐・植林等の体験学習等を、学校教育で活かしてほしい。

●環境を良くすることは、自分達のためであることを、意識させることが必要だと思う。小さい時の教育が大事だと思う。

●自分の体験から、子どもは動物に大変興味を示すので、幼稚園児や小学生低学年に話をするとき、動物を用いて話をすると、印象に残ると思う。

●基本目標3では、「生き物とふれあえる緑と水辺の豊かな環境を整備するためには、区的环境部門だけでなくまちづくり部門等と連携」とある。役所は縦割りというイメージがあるので、どのくらい他部署と連携の動きがあるのか知りたい。基本目標5については、雨水市民の会では環境教育に力を入れている。今後、墨田区と連携して進めていけたらと思う。

○緑化の推進に関して、壁面緑化や屋上緑化等、条例や要綱等に関わる行政指導を行っている。公園等の公有地は道路公園課等が担当し、環境保全課では、民有地を対象に緑化の推進の指導を行っている。仮に墨田区で緑被率を0.1%上げようとする、100m×140mの緑を増やす必要がある。緑被率を1%上げようとする、向島百花園が10数個分の緑を確保する必要がある。

●墨田区と江東区の街路樹の大きさを比べると、明らかに違う。江東区は緑を増やそうと、木を大切にしている。墨田区は枝が邪魔になると、やみくもに選定を繰り返している。街路樹を消耗品扱いしている。根本的な考え方が違うので、その辺の意識を見直す必要がある。

●土地の特性もある。緑被率に代わる指標として緑視率というものに注目している。アンケートによっては、緑視率が向上すると、区民の満足度も向上する。その緑視率を高める目標値はないのか。

○緑視率については、目標値はない。緑被率を高めるために、壁面緑化等の普及、推進に努めている。

●緑視率は、見る角度や時期等で違ってくる。分析の評価については、まだ確立されていない。

●我々建築関係者が環境を悪くしている。やさしい街にするならば、一番大切なことは、街の空環境の整備だと思う。所有者の方の住意識を変えて、いかに街の中にやさしさを造るかということだと思う。そのために、ハート面への働きかけが重要だと思う。

まず、住環境を良くするため、老人、子どもたちが安心して住めるよう併設施設を造ること。老人が地元で住める施設があると、そこに家族が集う。子ども達の施設があると、親の世代が集う。そこに緑を増やしていけば、安心・安全な住環境が生まれる。

●墨田区は基本目標3の取組みに欠けている。壁面緑化や屋上緑化等、少ない土地に緑を増やす努力はしているが、緑地の空間等、緑を広げる取組みに欠けている。災害等を防ぐ役割もあり、そこが一番肝心だと思う。他区に比べ欠けている。基本目標5については、学校では、低学年から苗等を植えているので、その点は評価する。

	<p>●普段、墨田区を回ってみると、意外と緑が多いと感じる。梅が咲いていたり、親水公園ではイトトンボを見かけた。墨田区には良いところが沢山あるので、その良いところをもっと発信することも大切だと思う。</p> <p>●学校支援ネットワークについて、以前、フォーラムがあり、墨田区では活発に学校支援ネットワークが活用され、延べ500を超える授業が実施されている。地域の協力、地域ぐるみの参加で、特に教育委員会の中に本部があるため、すぐに情報が広がり、情報の共有に優れている。</p> <p>●基本目標3については、民間にできることは少ないと感じている。生物多様性について、墨田区でビオトープ事業が行われていたら、見学したい。基本目標5については、環境関連ボランティアやリーダーの育成が重要だと思う。是非、環境関連グループの集いをやってもらいたい。他のグループの活動内容を知り、交流を深め、活動の輪を広げていきたい。</p>
所 管 課	区民活動推進部 環境担当 環境保全課 環境管理担当 内線 5463